

Young Entrepreneurs Group of
The Fukui Chamber of Commerce and Industry

YEG FUKUI



vol. **92**

発行日/平成11年11月15日発行
発行所/福井商工会議所青年部
福井市西木田2-8-1
TEL: 0776-36-8111
FAX: 0776-36-8588

発行者/森永 克彦
編集者/江守 康利

福居

福井商工会議所 青年部会報



CONTENTS

- 福井に新しい祭りが生まれた 2
第1回「踊れ!YOSAKOIイッチョライ」大成功!!
- 会員訪問 おじゃまします No.2 4
花谷 政彰さん
- 活動報告「めざせヨミゼロキャンブ」 6
- インターネットのツボ 9

青年部ホームページアドレス <http://www.fcci.or.jp/iyeg/>

福井に新しい祭りが生まれた

第1回「踊れ! YOSAKOIイッチョライ」大成功!!

7月30日、福井フェニックスまつりにおいて、我々青年部は、「第1回 踊れ! YOSAKOIイッチョライ」という踊りパフォーマンスの競演イベントを主催した。2月のきっかけとなった講演会から、7月30日の大成功に終わるまでの経過を担当副会長がまとめた。

◆「YOSAKOIソーラン祭り」に出会う

この物語は、平成11年2月17日、青年部6名が、軍司貞則氏の講演を聞いた時から始まった。

10分程のビデオをみた後、YOSAKOIソーラン祭りが生まれた経緯を聞いた。札幌の1人の男と4人の女達が、見向きもしない大人たちや現実に立ち向かい悪戦苦闘の末、造りあげたのがこのYOSAKOIソーラン祭りであった。我々は、鳥肌が立つほどの感動をおぼえながら聞き入った。そして、当青年部に、この祭りを造りあげた5人のような情熱があるかどうか考えていた。「この祭りは、過去3年間サンバをとり入れ、市民参加型の祭りを目指しながらも、目標に到達できないでいる我々を奮い立たせ、福井を動かせるかもしれない。……」

◆課題は山積みだったが

企画実行にあたって、クリアしなければならない点が5つ。第1は青年部の情熱、第2は踊り手の募集、第3は親会議所の理解、第4は観客動員、第5は我々に与えられた時間の短さであった。

まず、青年部内での理解を得るため、軍司貞則氏の著書をまわし読みし、祭りの収録ビデオを購入し配った。皆一様に感動し、徐々に理解者は増えた。

4月には、未完成ながら企画書ができ「感動と興奮」を合言葉に「YOSAKOIイッチョライ祭り」と銘打ってスタートを切った。

4月20日、会議所業務課へ企画説明を行い、前向きな理解を得ることができ、福井フェニックスまつり

「みこし大会」のサブ事業として、我々の企画へ予算を付けてもらうこととなった。

◆越前時代行列で初披露

我々の動きの支えとなったのは、踊りの主軸となるキャンディポップ代表の栗原美幸さんである。栗原さんにより、越前時代行列のアトラクションのためのYOSAKOIソーラン踊りの振り付けはできあがり、キャンディポップと共に踊った。一同は心地よい汗をかいた。この時私の中にはイッチョライへの自信なるものができつつあった。

◆本物を見るために札幌へ

そして6月、青年部有志10名とJC有志2名は、YOSAKOIソーランまつりの本物を体感するために札幌へ向かった。会場の雰囲気、熱気は、すばらしく、踊る人も見る人も楽しげで街は輝いていた。あらためてYOSAKOIイッチョライへの思い入れが強くなった。

◆伴奏曲は福井らしさを

踊りの伴奏曲は、福井の新民謡「イッチョライ節」を作曲家恒見コウヘイ氏に編曲していただき、YOSAKOIイッチョライの基本曲ができあがった。栗原さんにより振り付けされ、青年部として6月21日から7月29日まで計10回毎回2時間以上練習を行った。また、実行委員会は、連日、練習後にも深夜まで行い、運営上の詳細を検討していった。

◆続々と参加応募が

他の団体の応募は、5月～6月の間に啓蒙小学校・秀和会・(株)ユース・吉岡幸株式会社・清川メッキ株

式会社・明新森組'99・宝永小学校と次々参加表明があり、この時点で観客動員もみこまれ、大会の姿ができあがりつつあった。

また、大会名は「第1回 踊れ! YOSAKOIイッチョライ」とすることと決まった。

◆賞品、記念品はオリジナルで

大賞受賞団体には、トロフィーの代わりに、不死鳥フェニックスの刺しゅう入り「長はんでん」を贈ることとなった。これは青年部OBで構成する「あじさい会」会員の方々より、新調して寄贈していただいた。これを大賞受賞チームの持ち回りにすることとした。(YOSAKOIは名誉を得る競技であり、決して賞金を得るための競技ではないと思う。)

審査員と参加団体代表には、竹製の鳴子(なるこ)を記念品として渡した。この鳴子は、宮崎村の竹で作ったオリジナル鳴子であり、我々の誠意を示した。

◆いよいよ本番

7月30日当日は午後4時集合、多くの青年部員により会場整備を行った。演舞スペースになる路面電車の線路すき間に角材を埋め、カーペットを敷くという作業はスムーズに終えた。

6時40分審査員(平岡芳美さん・佃栄治郎氏・小川修氏・揚原安麿氏・恒見コウヘイ氏・森永会長)の紹介があり、明新森組'99を皮切りに競演はスタート。小気味よいリズムと光に誘われて周辺からもぞくぞくと人が集まり、会場は演技スペースも狭くなるほど、観客で埋めつくされていった。

参加8チームそれぞれ力いっぱい演技は観る人に感動と興奮を与え、拍手を誘い、踊るもの同志も讃えあい、自分たちが造りあげた祭りで人々の顔は充実感に満ちていた。

◆会場一体となってYOSAKOIイッチョライを

7つの各賞発表では、歓声・どよめき・ため息が起こった。そして大賞は、〈キャンディポップS.J.&国際ウエルフェアメディカル専門学校&福井県立大学の「気分はいっちょらい」〉チームが獲得した。表彰状授与に続き「長はんでん」があじさい会会長小川修氏より贈呈

第1回 踊れ! YOSAKOIイッチョライ審査結果

◆第1回 YOSAKOIイッチョライ大賞

キャンディポップS.J.&国際ウエルフェアメディカル専門学校 & 福井県立大学「気分はいっちょらい」

- ◆優秀賞 啓蒙小学校・啓蒙童子
- ◆優秀賞 明新森組'99
- ◆審査員特別賞 吉幸清メキ・スクランブラーズ
- ◆熱演賞 宝永トレジャーズ
- ◆ほのぼの賞 秀和会
- ◆きらめき賞 (株)ユース
- ◆なるこ賞 YEG & イッチョライ・オドロッサ

された。大賞チームのエキシビジョン演舞は、第1回大賞の栄光を胸にしたみごとな舞いだっ。フィナーレでは、会場全体でYOSAKOIイッチョライを踊り、参加チーム・おみこし団体・民踊団体・一般の人々、全てがYOSAKOIのすばらしさを味わい、騒然とした中で「第1回 踊れ! YOSAKOIイッチョライ」は幕を閉じた。

◆来年に向けて動き始めよう

最後に、福井の新しい祭りは生まれました。我々青年部が生み出したと自負しています。もちろん、いろいろな方の協力によって成功しました。そして今、来年に向けて動き始めています。よりYOSAKOIへ、よりソーランへ、そして福井らしさを求めて、

「がんばれ、YOSAKOIイッチョライ」そして「福井商工会議所青年部」

副会長 出田 吏市



▲大賞受賞チームに渡される長はんでんのししゅうデザイン

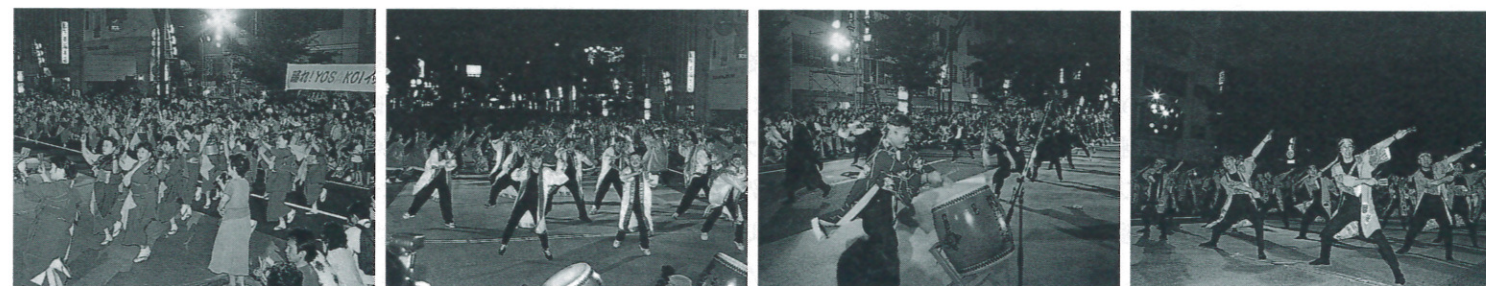


▲明新森組'99

▲宝永トレジャーズ

▲(株)ユース

▲啓蒙小学校・啓蒙童子



▲秀和会

▲キャンディポップS.J. & 国際ウエルフェアメディカル専門学校 & 福井県立大学の「気分はいっちょらい」

▲吉幸清メキ・スクランブル

▲YEG & イッチョライ・オドロッサ

おじゃまします

— あなたのことに教えて —

花谷 政彰さん （南インターワーク 代表）

今、地球環境と人間の営みとの共生が問題になってきています。そこで、今回、環境ビジネスに取り組んでいる、花谷さんの新ビジネスに迫りました。



●環境ビジネスというのは？

今の世の中、環境負荷がどんどん大きくなっています。企業とか、工場からは、大量の排水や排気物が放出されています。一方そういう事態に対して、市民の目はますます厳しくなっています。そこで、そういった環境に負荷を与える事に対して、改善をはかる提案をしていくビジネスです。もう少し言うと環境管理と衛生改善の提案です。

つまり、地球環境によくはないことはやめよう、という仕事ですね。

●現在の企業の取り組みは？

たとえば、武生の電気部品メーカーさんの場合、クーリングタワーの冷却水の pH（ペーハー）値調整のために、数千円という費用を使って、クーリングタワーに総合化学薬品を注入しています。その近くに寄ると、ワーッと湿しんがでるくらいに薬品が入っているんですよ。それが、蒸発・飛散したときに、どれだけ環境に負荷をあたえるのか想像すると、ゾッとします。クーリングタワーという一つの機能を発揮するために、ものすごく、他に負荷を与えるという状況になってきています。そこで、薬品でなく違う形で解消していこうとしています。

また、焼き鳥店グループの環境管理の手伝いをさせてもらっています。ゴキブリ駆除の依頼がありました。強力な殺虫剤を使って駆除すると、厨房のゴキブリは消滅させることができますが、それが他の施設の微生物を殺し、汚れを引き起こし、また配水管を通して厨房に臭いや、ゴキブリを呼び込んでしまいました。

単に薬品をまいて、殺虫するだけでなく、発生源を

【会員訪問】 No. 2

例会などでは、お互い顔を合わせるが、どんな仕事をしているのかよく知らなかったり、意外に共通の趣味を持つ人がいたりします。

そういう、会員の知られていない一面を、勤務先やご家庭におじゃまして楽しくご紹介します。

断たないと、問題解決にならないのです。そういった意味でも、環境問題というのは、一つの事項の処理ではなくて、関連して連鎖した問題の解決が必要になってきます。

すべては疑問から始まります。環境も変わってきていますし、お客様の困っている分野というのも、どんどん変わってきています、そういう中でタイムリーなサービスを追求していかないといけないと思います。

●環境ビジネスに入るきっかけは？

私は、水質改善と、企業(病院やホテル等)の節水により、負担の軽減を図るところからスタートしました。でも、福井においては水道料は低廉で、工場は地下水を利用しているので、ビジネスとしてはなかなか立ち上がっていかない面がありました。

そうした、段階を経て、今の環境管理と衛生改善のビジネスにたどり着きました。

●どうして民間企業の方が環境に対する措置に積極的なのでしょうか？

費用を少しでも軽減しようというところから衛生改善のビジネスが始まっています。現在かかっているコストとの比較で採用になることが多いです。排出物の処理費の軽減ということで、民間企業の取り組みのほう積極的です。

また、大手企業が ISO 14000 の取得をしようとしたら、その関連企業まで、環境問題に取り組んでいかないといけない、ということで、徐々に波及しているのだらうと思います。

●「インターワーク」という社名の由来は？

社名の上に「ビジネスプロジェクター」とあるんですが、このプロジェクターはプロジェクトのことではなく、映写機のプロジェクターなんです。ビジネスを映写機のように反映して行きましようという主旨の名前です。「インターワーク」のインターというのは、相互関係・相互理解のこと。人のつながりを持つとか、情報を共有することにより仕事しよう、ということに付けた名前です。

●ありがとうございました。

草記

「YOSAKOI イッチョライ」の思いを市長に 6月例会 (H11. 6月23日)

我が青年部のメイン行事の一つ「市長と語る会」が、去る6月23日(水)福井商工会議所国際ホールにて開催されました。当日は、福井市より酒井哲夫市長、竹内商工労働部部長、八木商工課主任にご出席頂いた。

まず、酒井市長より「第4次福井市総合計画」における市政の7本の柱について、お話しいただいた。福井駅周辺整備事業・中心市街地活性化事業、歴史と文化がみえるまちづくり、高齢化問題、介護保険、教育問題、環境問題など、多岐にわたる分野の将来展望を語っていただいた。

続いて「青年部アピールタイム」で、これまでの青年部企画のまちづくりの歩み、フェニックス祭りに対

する姿勢をご覧いただき、我々の取り組みをご理解いただいた。

次に「豊かで住み良い郷土づくりを考えよう “21世紀地域創造 町・祭・産業”」と題して3つのテーマでテーブル討議を行った。

現在の福井市が置かれている状況を踏まえつつ、福井市の発展へ情熱を持って取り組まれている酒井市長に、感じ入った時間でした。

例会研修委員会
岩本 修



鯖江会・武生会に「YOSAKOI…」を披露 7月例会 3単会合同例会 (H11. 7月13日)

恒例の3単会合同例会は、7月13日(火)武生・しきぶ温泉「湯楽里(ゆらり)」にて開催され、福井・鯖江・武生より約100名が参加した。

福井からはバスを仕立てて豪華な施設に到着。式典では、小浜の東野孝治県連会長の挨拶、武生・増谷幸士会長による歓迎の言葉があり、そして、福井・森永克彦会長の乾杯の音頭によって懇親会の幕は開かれた。

まずは自己紹介を兼ねての「大名刺交換会」。できるだけ多くの他人の名刺を集めるという趣向だった。後ほどの表彰では福井・金木正隆副会長が17枚を集め

てトップ。豪華景品が送られた。

各単会からの出し物では、我々福井会はとっておきの「YOSAKOI イッチョライ」群舞！ビートの効いた音楽と、鳴子の響きと、飛び散る汗とが、会場を揺るがした。平均年齢37歳の迫力ある踊りに、あたたかい拍手と冷やし混じりの歓声飛び交った。

総務委員会
慶松 裕司



体力測定をもとに 自己体力改革を!! 8月例会 (H11. 8月25日)

8月25日、福井県予防医学協会にて、8月例会「心と体の健康づくり Let's 体力測定」を実施した。8月は、フェニックス祭り、夏の合宿(キャンプ)等の活動の後だけに、毎年出席率が非常に低い月にも関わらず、多くのメンバーの参加を得ることができた。

今回の企画の狙いは、YOSAKOI イッチョライの踊りに関して、体力の低下を感じている人が多いと思い、体力測定を実施することにより、自己の体力年齢を把握し、心とからだの健康づくりを考え、来年度のYOSAKOI イッチョライに向け自己改革をするきつ

けを作ることであった。

検査は、握力・全身反応検査・体前屈・閉眼片足立ち・自転車エルゴメーター・上体おこしの6項目の運動機能検査で、予想していたよりもハードだった。

検査後、健康管理アドバイザーの方より、「心と体の健康づくり」と題して運動に対する指導をいただいた。

今回の結果より、来年度の「YOSAKOI イッチョライ」に向け、自己体力改革そして自己意識改革を実施しよう！福井の未来は、私たちの体力から！

例会研修委員会 清川 卓二

めざせ! ゴミゼロキャンプ 夏の合宿「ゼロミッション・キャンプⅡ」

(H11. 8月21~22日)

8月21日~22日、永平寺町浄法寺山青少年旅行村にて「ゼロミッション・キャンプⅡ」というテーマのもとに、極力ゴミを出さないことを目標に夏の合宿を行いました。参加人数は会員家族も含めて70名余りでした。

21日(土)昼よりテント張り、夕食の準備が行われ、献立のバーベキューは、家族の絆・会員同士の交流を深め、外で食べる味は格別でした。キャンプファイヤーでは、ジェスチャーゲームが行われ大変盛り上がりしました。家族で参加した方のみでなく、個人で参加した方も、他の会員や、家族について知るこ



とができて、面白く楽しめた企画でした。

夜は遅くまで酒を交わし、いろいろな業種・年齢の方と話をすることができて、大変有意義でした。

22日(日)は、朝食を済ませた後、オリエンテーリングが行われ、浄法寺山の展望台までのコースを、親子で楽しんで頭と体のいい運動になったようです。そして、昼食のカレーは、すばらしい自然のパノラマを眺めながら大変おいしくいただくことができました。

ゴミの出ないキャンプとして、ゴミになるものを持ち込まない、捨てずにリサイクル、分別して捨てるという3つの方針をきめました。缶ビール・缶ジュースの禁止、紙コップ・紙容器は避け、家庭から食器等を持参して、リサイクルのできないものは禁止にしたことで、参加者のご協力により、とても80名近い人数でのキャンプだったとは思えないほど、ゴミを少なくすることができて、このテーマは大成功でした。

心地よい疲れは残ったものの、自然のきれいな空気をたくさん吸い込んで、心と体のリフレッシュができました。

会員交流委員会 澤田 晃一

ケーキ作りに挑戦

9月例会 男の料理教室「デザート編」

(H11. 9月22日)

9月例会は、青年部恒例となった“男の料理教室”を9月22日、松岡町のレストラン『サニーサイド』で行いました。今回はデザート編として、天谷調理師専門学校の洋菓子講師をお務めのパティスリー(料理職人)天谷允彦先生の実演をメインに、3品のデザートづくりに挑戦しました。

デザートは見かけの割には、料理以上に手間暇のかかるものです。混ぜて・捏ねて・寝かせて。実際には、下ごしらえを前

日に行うケースがほとんどだということです。そんな訳で、今回は講師の実演が中心となりましたが、合間の試食(ミニシュークリーム・揚げ菓子などなど)時には“ウマイ”を連発する会員も。クレープを焼く段になっては、プロに“ナカナカ”

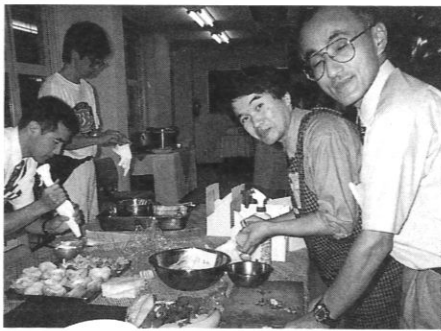
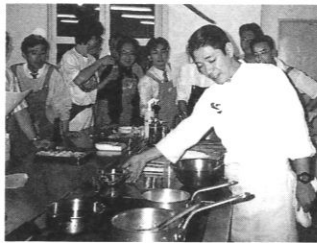
と言わせる会員もおりました。

いざ、お土産のケーキ作りでは、クリームやフルーツを乗せる仕上げだけでも大騒ぎ。やっぱり、みんな料理作りは嫌いではないようです。今回は二次会の設定は無しでした。お父さんの作ったケーキの、家庭での評判はいかがなものだったのでしょうか?

一つ二つ覚えました。「シューは固いのが普通」「エクレーアというのはチョコレート付きではなく、長い団子状の形のこと」だそうです。

最後に、サニーサイドからいただいたメールをご紹介します。『何かといたりませんでした。皆さんに大変熱心に受講いただけたと、講師もスタッフも、とても喜んでおりました。是非、また、お立ち寄り下さいませ。お待ちしております。』

レストラン サニーサイド マネージャー 天谷 菜海
メディア委員会 藤澤 克美



青年部インターネット・Eメール講習会

(H11. 9月24日・30日)

9月24日、30日の両日、福井フェニックスプラザ内メディア実習室及び福井県産業情報センター内パソコン実習室Bを利用して、インターネット&Eメール講習会を実施しました。

福井商工会議所においても、ショッピング・モールの展開や週刊 E-mail ニュース発行など、ネットワークを活用した事業が行われております。これからの事業の展開にインターネットやEメールは欠かせないものになりつつあります。青年部会員の中でも徐々に利用者が増えてはおりますが、まだまだというのが現状です。そんな中で行われた今回の講習会は、早くから多くの申込みがありました。先着20名で設定した企画でしたが、会社にメールを導入したいと思っている会員、業務や趣味の幅を広げたいという会員など、実習室は真剣な眼差しで満ちていたように思います。

インターネットでは主にサーチエンジン(検索用ホームページ)の使い方を中心に。Eメールではモデムを使ったプロバイダへの接続など環境設定をはじめ、メールの利用マナー、CC(カーボンコピー)やBCC

(ブラインドカーボンコピー)の使い分けなど、より実務的な部分にも及びました。

実習室の環境や時間制約のため、十分にできたとは言えない部分もありますが、初めての方にも基本的な操作程度は理解して頂けたのではないのでしょうか。

受発注や資料の入手・交換。迅速・低コストの、この新しいメディアであるEメール等は活用すればするほどに、その利用価値が広がっていくでしょう。

我々青年部としても、会員相互の連絡網の整備や情報交換・親睦はもちろん、各々の業務の拡大等に結びつく利用方法を見いだしていきたいと思っております。

メディア委員会
藤澤 克美



スポーツ交流会に100名を越す参加者

(H11. 10月5日)

熱気あふれるボーリングと懇親会

10月5日(火)WAVE40にてボーリング大会、そのあと地ビールレストラン「越乃麦酒」に場所を移して、表彰式を兼ねた懇親会を行いました。

今回は、「第1回 踊れ! YOSAKOI イッチョライ」大成功を記念して、参加チームの皆さんに集まっていたきました。YEG会員とあじさい会を加えると、100名を超える活気あふれるスポーツ交流会となりました。

18:30よりボーリング大会。1人2ゲーム、個人戦はその合計点で、団体戦は上位3人の合計点で争われました。賞品は、森永会長をはじめ会員が持ち寄り、半数以上の方に何か持って帰ってもらうよう配慮しました。

表彰式・懇親会は「越乃麦酒」を借り切って、立食パーティー。参加者は、熱い共通の思い出があるためか、話は尽きることなく笑顔の花が咲いていました。

各チームとも、来年に向けての意欲を力強く語り、大盛況のうちに幕を閉じました。

ボーリング大会の結果は次の通り。

<団体の部> (15チーム対抗)

- ・優勝 あじさい会
- ・準優勝 明新森組

<個人の部>

- ・優勝 清水慶造

(あじさい会) 350P

今回は12位以上が300Pを超えると激戦でした。

最後に、小川修会長よりお祝金を、竹越治美さんより豪華賞品をいただくなど、あじさい会の皆様に絶大なご支援をいただいたことを付け加えておきます。

皆様、おつかれ様でした。それでは、また来年、がんばりましょう。

総務委員会 慶松 裕司



車なしでは…

宮本 武

私は、仕事上、日本全国いろんな所に行くチャンスがあり北は北海道、南は九州と飛びまわっています。

その中でも特に多い行先は、北陸3県、東海地方、関西地方です。これ位の場所なら、電車より車で行く事が殆どです。どうしてかと言うと、車は自由がきくからです。電車だと、その行先の近くに駅がなかったら最悪です。しかも、そこが大田舎! だったら、目的の場所まで行くのにタクシーでも膨大な経費がかかってしまいますよね。

経費だけの理由で車という訳でもなく、納品や据え付けで、トラックに乗って行くこともあります。

車を利用した方が経費がかかる場合もありますが、やっぱり! 車で移動するとゆっくりマイペースでいろんな所を見て行けます。

四季の彩りや、その地方の特徴、そこにしかないお店、食べ物…いろんな物が見えてとっても楽しいです。

車で移動するという事は、当然の様に高速道路

を利用するんですが、またこの高速道路というところが面白いんです。今では、主な地方都市へは、いったん高速道路に乗れば、全く降りることなく行けます。すごく便利になっています。

PAやSAのサービスも年々良くなっていますよね。仮眠が出来る施設があったり、FAXサービスがあったり、マクドナルドやケンタッキーの店があるPAやSAもあります。

PAやSAだけではなく、道路自体も年々良くなっています。雨が降った日なんかは高速道路はとっても危険ですが、最近の高速道路のアスファルトは、水が全く溜まらないような裏技(技術)を使っているところもあって、そういう道路も増えつつあるようです。また、三三七拍子が鳴る道路もありますよ!

これからも、沢山の地方に行って、色んな場所、人柄にふれあい、自分の視野をもっと広げて行きたいと思います。

皆さんもどうですか? 息抜きにのんびりマイペースで旅行に出掛けてみては!

リレーコラム

インターネットの本屋さん その1

メールマガジンを購読しよう

電子メールを使ってビジネスや生活に役立つ情報を集めるテクニックを紹介します。

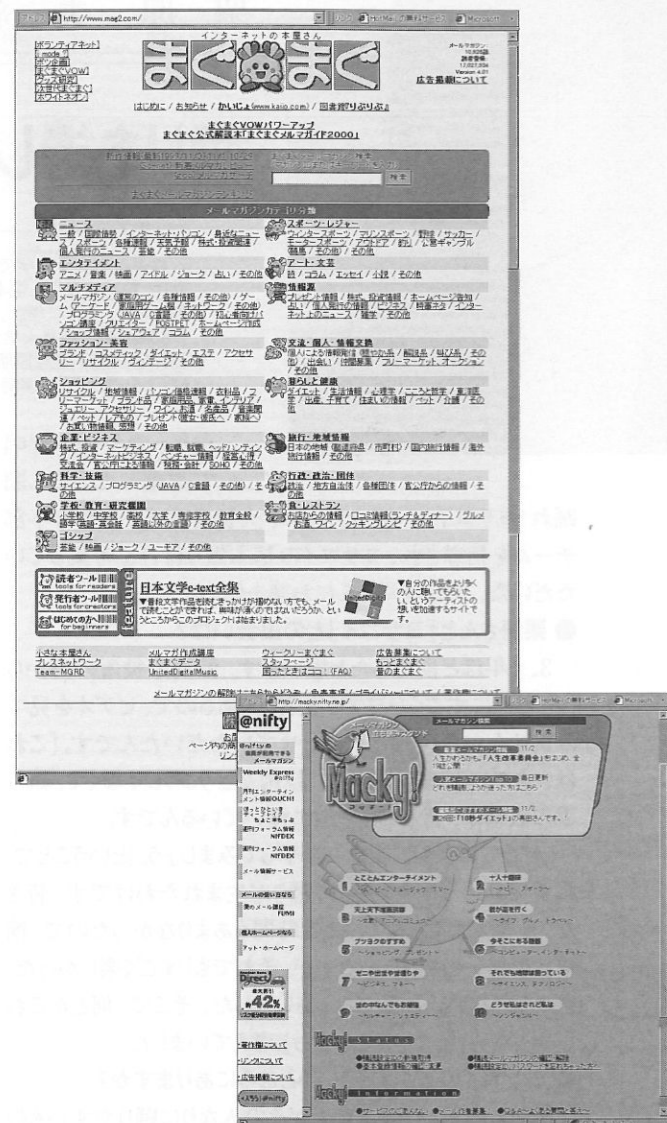
電子メールには、短い時間で大勢の人に同じ内容を伝達できるという性質があります。これを利用し、様々なトピックやニュースを電子メールで大勢の人に配信するものを「メールマガジン」とか、「メールニュース」と読んでいます。

インターネット上では、いまや無数のメールマガジンやメールニュースが発行されています。大手の新聞社や出版社はもちろん、企業が自社製品の購入者向けにサービスとして提供するもの、個人やグループが趣味や興味のために発行しているものもあります。無料で購読できるものが多いのも魅力です。

いくつかに参加していれば、毎日メールをチェックする楽しみが増え、新しいニュースや情報を他のメディアより早く知ることが出来ます。また、毎日メールチェックする習慣がつけば、仕事関係や青年部などの大事な連絡事項も見遅れることなく、対応できるようになります。

では、具体的な購読の方法はというと、各メールマガジンを発行するサイト(ホームページ)で登録するのが基本ですが、いろんなメールマガジンを紹介して一括登録してくれるところもあります。例えば次のサイトが種類も豊富で人気があります。

- インターネットの本屋さん『まぐまぐ』
<http://www.mag2.com/>
- メールマガジン立ち読みスタンドMacky!
<http://macky.nifty.ne.jp/>



これらのサイトの登録用ページで、受信先メールアドレス、登録パスワードなどを登録して、各ジャンルの紹介一覧から購読したいものをいくつか選ぶだけ、登録抹消もここからOK。簡単ですね。
メールマガジンを有効に使い、インターネットライフを充実していきましょう。

<康>

新入会員紹介

1999年6月~9月入会会員



とみ た こう いち
富田 幸市

A型 S38.2.27生
勤務先: (株)中部都市計画
業種: 不動産業
例会研修委員会



さわ だ こう いち
澤田 晃一

A型 S49.11.5生
勤務先: (有)桜町電子
業種: 電子部品製造
例会研修委員会



ふく おか やす ひろ
福岡 靖広

A型 S37.11.14生
勤務先: 竹原運輸(株)
業種: 運送業
例会研修委員会

■ 建築・企画・設計・監理
ARCHITECT & ENGINEERING SERVICE

株式会社
五十嵐建築設計事務所
所長 五十嵐 清人

〒910-0019 福井市春山1丁目3-7 TEL0776-24-8598 FAX24-8546
E-mail: arijun@aqu.aocn.ne.jp



パソコン・複写機・携帯電話
のことなら是非
佐々木 までご一報を!!

〈商工会議所青年部相談役 佐々木 清史〉

情報機器 オフィス家具

有限会社 エフオーシステム

〒910-0004 福井市宝永2丁目13-13
TEL0776-25-5300 FAX0776-25-6030
E-mail: fosasaki@po.incl.ne.jp

まだ使えるのにもったいない…と思ったら
中古品 (スクーター・自転車・タイヤ・洗濯機 etc)
100%輸出

K.I.ケイマツ・インターナショナル

「うさんくさいことをまっとうに」 代表 慶松 裕司

金津ヤード: 金津町下金屋29-22-81 (出張所)
TEL・FAX: 0776-75-2215 石川・金沢鳴和
携帯TEL: 090-3229-3827 富山・新湊七美

電気設備・冷暖房設備設計施工

共生・自然・環境

株式会社 ショーセイ
代表取締役 五十嵐 長

事務所 〒910-0813 福井市中新田町2-82
TEL(0776)52-2100 FAX(0776)52-2112
本店(自) 〒919-0465 福井県坂井郡春江町江留上町186
TEL(0776)51-2023



踊りを通して自分らしさを発見して!

プロフィール

お茶の水女子大学で松本千代栄氏に指導を受け、舞踊教育学を学ぶ。高校教師として5年勤務の後、子育てに専念。

36歳の時、福井大学大学院に入学。卒業後、福井県立大学看護短期大学部非常勤講師、病院(ストレスケア科)講師。1年前から介護福祉士

養成校 国際ウェルフェアメディカル専門学校専任教員とし勤務。友人と共に、小中学生対象のダンスジュニアグループ「キャンディポップ」を発足。

日本スポーツ教育学会会員、レジャー・レクリエーション学会会員、日本ダンスセラピー協会会員

本年、青年部が提唱して主催した「第1回 踊れ!ヨサコイ・イチョライ」の、大賞受賞チームや青年部チームを指導され、ヨサコイの基本振り付けを考案していただいた、栗原美幸さんにお話を伺いました。

● 栗原さんと「ヨサコイ」との出会い?

3、4年ほど前だったと思います。敦賀市役所の方から「北海道にすごくパワフルな祭りがあるので、ビデオを見てみませんか?」ということで見せていただいたんです。「これは、すごい」と思いました。技術がどうこうじゃなくて、踊り手の表情が、皆とても素敵に輝いているんです。

「ぜひこのような形で一回やってみましょう。」ということで、敦賀で初めてヨサコイ系の踊りが生まれたわけです。皆さん、仕事がお忙しくて、練習時間もあまりなかったので、簡単な形にして踊ったんですが、それでも「すごく楽しかった。また踊りたい。」と言って下さいました。そこで、何とかこれを福井で出来ないかと、ずっと考えていました。

● ヨサコイのよさはどういうところにありますか?

ヨサコイとは、いろんな人がその人なりに踊りやすいものですね。ヨサコイ踊りは「激しい踊り」と誤解されて「私には無理」とおっしゃられる方もいらっしゃいますが、型とかスタイルにとらわれないで、技術のある人もない人も、子供も大人も男も女も、自分らしさを表現できればいいのではないかな、と思います。実際、北海道では、あらゆるジャンルのヨサコイが踊られているんです。

ヨサコイを踊る仲間同士、一つの目標に向かって思いを一つにして作り上げていく過程の中で、いろんな人間関係が生まれ、育っていき、安心して自分らしさを表現できる場が確保され、思いっきり表現する、それが各自の表情に表れて来るんだと思いますね。

● キャンディーポップというチームは?

特別に決まったコースとか型を持っているわけではなくて、なんでもありの教室です。ダンスを通して、子供が持っている個性とか、表現を引き出そうと言うことで、友人と二人で始めました。

子供達が持っているカラーを大切にしながら、そこから、自分らしさを発見する力や、隠れている力を引き出すのは大変です。でも、子供達にほんの少しでも、そのような所が見られたとき、「やってよかったな」と思います。ヨサコ

イの練習では、それぞれの子供達のいいところや、隠れた能力をいっぱい発見して、友人と二人で感激にひたっているんですよ。

● 今の子供たちの状況をどのように思われますか?

最近の子供たちは「どうやって人と関わったらいいのかわからない」と言います。コンピューター・ゲームやテレビと向かいあうことが多くなり、友達との人間関係を築くことが苦手になってきています。また、抑圧された環境のなかで、自分自身を表現する場がない、機会がないようです。

そこで、学校教育の現場でも、人間関係を円滑に、コミュニケーションのとれるような授業を増やしていこうという動きがあります。もう少し具体的にいいますと、ダンスとか、実際に人間どうしが触れあうことにより、人と人との関係の取り方を、体の動きを通して学びましょう、という方向があるのです。

● 栗原さんの学校時代は どうでしたか?

大学では、教科の中での表現教育を専門にやっていたので、「どうやって、ダンスで人間が心を開いていくのか」という勉強をしていました。私の場合、大学での環境が、今の子供たちにのしかかるような抑圧された枠をとり外してくれたように思います。恩師松本先生は「あなたたちは宝です。いつもきらきら輝いていてほんとにきれいな。」って言ってくれるんですよ。そう言われていると、自分が輝いてる気になってくるんですよ。逆に「アナタたちは、いつもダメね」って言われると、そうになってしまうんですよ。人間って誉められているとやはり、いい気分ですよ。自信もつきますし、なんでもできそうな気になってきますね。自分もそういう形で子供たちと接していればいいなと思ってます。

● 国際ウェルフェアメディカル専門学校ではどのようなことを?

ここは、3年制の介護福祉士を養成する学校です。ここでは、福祉的なレクリエーションの授業を担当しています。高齢者の方や障害を持たれた方々に「生きていることが素晴らしい」と思ってもらえるように、援助していくことを学ぶ授業です。人間として豊かな心を持っていないとつまりません。そのために、人との関わり方などを勉強しているんです。

* * * * *

栗原さんの根底には、人間に対する限りない愛が流れているように思いました。インタビューをする私たちも元気にさせてくれるひとときでした。さらなるご活躍を期待します。

